

ザヴァケファレ・リンポチェの骨格レプリカ、生体復元模型

【骨格レプリカ】世界で最も状態が素晴らしいとも言えるザヴァケファレ・リンポチェの化石。大恐竜展では、実物化石に加え、わずかに失われた骨化石を、近縁種の恐竜を参考に補って、完全な骨格模型として復元しました。向かいあう2体のザヴァケファレが再現されています。

【生体復元模型】ザヴァケファレ・リンポチェの生体復元模型を初制作！大恐竜展では、ザヴァケファレの実物化石や骨格模型だけでなく、生きている姿を復元しています。顔だけでなく、力強い首や脚、尻尾にもぜひ注目。ザヴァケファレは頭突きをしていた可能性が高く、生体復元模型では2体のザヴァケファレが頭突きをしている様子を再現しています。



生体復元模型の調整をする吉田学芸員

講演会のご案内

各講演会の申し込みは約1カ月前から約2週間の期間で行います。公式ホームページや往復ハガキで申し込みを受け付けます。定員を超えた場合は抽選となります。講演会を聴講するには大恐竜展のチケット、または半券の提示が必要となります。

会期中は右記に記載がない講演会やイベントも予定しております。詳しくは公式ホームページをご覧ください。

7.11(土)	福島県立博物館 講堂	モンゴル科学アカデミー古生物学研究所 所長 バダムハタン・ゾリグ氏	
7.19(日)	会津大学 講堂	国立科学博物館 館長 北海道大学 教授 福島県立博物館 学芸員 真鍋 真氏 小林 快次氏 吉田 純輝氏	
7.25(土)	福島県立博物館 講堂	筑波大学 准教授 田中 康平氏	
8.9(日)	福島県立博物館 講堂	東京大学大学院 准教授 平沢 達矢氏	
8.15(土)	福島県立博物館 講堂	岡山理科大学 助教 高崎 竜司氏	オンライン中継
8.21(金)	福島県立博物館 講堂	北九州市立いのちのたび博物館 学芸員 大橋 智之氏	
9.19(土)	福島県立博物館 講堂	福島県立博物館 学芸員 猪瀬 弘瑛氏	
9.20(日)	福島県立博物館 講堂	福島県立博物館 学芸員 吉田 純輝氏	

アクセス



〒965-0807 福島県会津若松市城東町 1-25
JR会津若松駅より約3km
JR会津若松駅から
バス..... まちなか周遊バス「ハイカラさん」にて約20分
「三の丸口」下車すぐ
まちなか周遊バス「あかべえ」にて約30分
「三の丸口」下車すぐ
タクシー..... タクシーで約10分

詳しくは公式ホームページをご覧ください。

料金	一般・大学生	平日 ^{※1}	1,700(1,500)円	平日チケットで土日祝・指定日に観覧される場合は差額をお支払いいただけます。土日祝・指定日チケットで平日に観覧される場合には差額の返金はされません。
		土日 ^{※2}	2,000(1,700)円	
	高校生	平日 ^{※1}	1,000(800)円	※1 () は前売り/団体料金 ※2 料金の土日とは、土日祝と指定日(8月10日、12日~14日) ・福島県立博物館の年間パスポートで大恐竜展の観覧はできません。 ・各種手帳(身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳)をお持ちの方と付き添い1名は無料です。入場時に手帳(マイロID可)をご提示ください。 ・未就学児は無料です。必ず保護者の方と同伴でご入場ください。 保護者の方は必ず観覧券をご購入ください。
		土日 ^{※2}	1,200(1,000)円	
	小・中学生	平日 ^{※1}	500(400)円	
		土日 ^{※2}	600(500)円	



お問い合わせ：福島民友新聞社事業部 電話：024-523-1334 (平日10時~16時) メールアドレス：dinosaur@minyu.jp

世界初公開！

新発見の堅頭竜類
ザヴァケファレ

福島県政150周年・福島県立博物館 開館40周年記念特別展

開館40周年 40th ANNIVERSARY

大恐竜展

The Dinosaur Exhibition

監字：千葉清藍 ©Masato Hattori



会期：2026 7.11(土) >>> 9.23(水・祝)

会場：福島県立博物館 (会津若松市)

休館日：月曜日(7月20日、8月10日、9月21日を除く)、7月21日
開館時間：9時30分~17時(夜間開館日は19時まで)
夜間開館日：7月18日から毎週土曜日、7月19日、31日、8月7日、9日~14日、21日、28日、9月20日~22日

主催 大恐竜展実行委員会(福島民友新聞社・福島中央テレビ・福島県立博物館)

企画 福島県立博物館、中央宣伝企画

協賛 JA 共済連福島、東北電力福島支店、一般財団法人ふくしま未来研究会、株式会社エフコム、株式会社グリーセス、株式会社第一印刷

後援 駐日モンゴル国大使館、福島県、福島県教育委員会、いわき市、会津若松市、会津若松市教育委員会、南相馬市、広野町、福島県小学校長会、福島県中学校長会、福島県高等学校長会、読売新聞社

プレイガイド：公式オンラインチケット、ローソンチケット(Lコード：26711)、チケットぴあ(Pコード：995-925)、JRE MALL チケット

[前売りのみ] 會津風雅堂、うすい百貨店、藤崎百貨店(仙台市)、福島民友新聞社本社(平日10時~16時)、福島民友新聞販売店

世界最古の頭突き恐竜
日本に現る

お得な《前売り券》販売中!
7月10日まで



恐竜のなかでも最も謎多きグループのひとつとされ、頭突き恐竜(バケファロサウルスなど)とも呼ばれる堅頭竜(けんとうりゅう)。2025年、福島県立博物館をはじめとする国際研究チームは、モンゴルのゴビ砂漠で堅頭竜の祖先といえる、世界最古の化石を発見し、この恐竜は新種であることを明らかにしました。そして「ドーム頭の恐竜の起源にして、尊い宝」を意味する「ザヴァケファレ・リンポチュ」と名付けました。

また、2023年には福島県立博物館が率いる日米チームが、世界で初めて「恐竜の喉(のど)」の化石を、モンゴルで発掘されたピナコサウルスから発見し、恐竜の「声」研究を大きく前進させました。

大恐竜展では、この大発見であるザヴァケファレやピナコサウルスの「喉」の化石など、世界初公開となる化石を中心に展示します。「ジュラ紀の終わり」「白亜紀の幕開け」「新種恐竜の発見」「恐竜の鳴き声とコミュニケーション」などを8章にわたり紹介していきます。

1章 プロローグ、2章 ジュラ紀の終わり、3章 白亜紀の幕開け、4章 新種恐竜の発見、5章 白亜紀の多様性、6章 恐竜の社会、7章 現代の恐竜-鳥類、8章 発掘調査の今

世界初公開の化石たち

大恐竜展では、世界初公開・日本初公開の化石が集まります！恐竜研究の大きな進歩につながった恐竜たちを紹介します。

世界初公開！ ザヴァケファレ・リンポチュ

大恐竜展において、大きな見どころである「ザヴァケファレ」。ザヴァケファレは、最古の堅頭竜類恐竜で、前期白亜紀の後期に生息していました。

ドーム型の頭を使い、繁殖の相手を巡る闘争などの社会的コミュニケーションをしていた可能性が出てきました。2019年に福島県立博物館の吉田純輝学芸員らの研究チームがモンゴルで発掘し、研究成果はイギリスの総合科学学術雑誌ネイチャーに掲載されました。

ここでザヴァケファレを発見したよ！

ザヴァケファレ発掘メンバーの集合写真(撮影:チンゾリグ・ツォクトバートル)



©服部雅人

ザヴァケファレの頭骨
モンゴル科学アカデミー古生物学研究所蔵

バケファロサウルス
©工藤晃司

ステゴケラス
©工藤晃司

ホマロケファレ
©工藤晃司

ホマロケファレ化石
モンゴル科学アカデミー古生物学研究所蔵

アムトケファレ
©工藤晃司

アムトケファレ化石
モンゴル科学アカデミー古生物学研究所蔵

ゴヨケファレ
©工藤晃司

ゴヨケファレ化石
モンゴル科学アカデミー古生物学研究所蔵

バケファロサウルス化石
ミュージアムパーク茨城県自然博物館

ステゴケラス化石
たんば恐竜博物館蔵

世界初公開！ のど ピナコサウルスの「喉」の化石

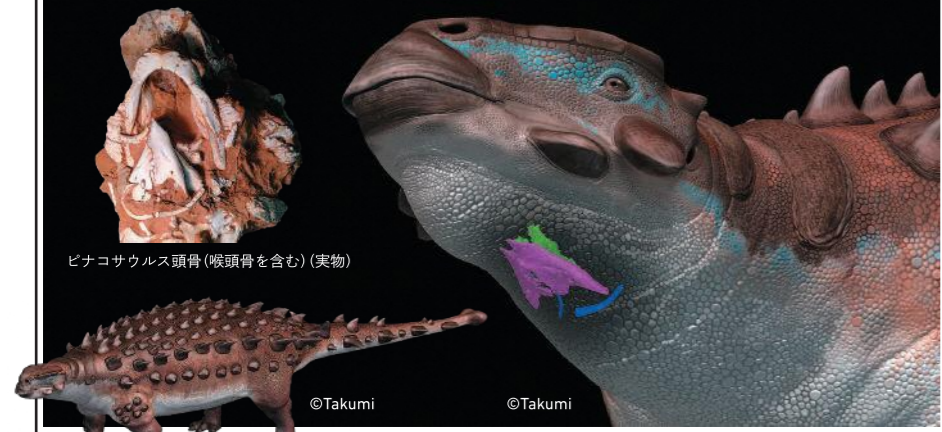
2023年に福島県立博物館の吉田純輝学芸員らの研究グループがこれまで未知だった「恐竜の喉(のど)」の骨を世界で初めて発見しました。音声に関わる器官として極めて重大な発見です。恐竜の喉の化石はモンゴル・ゴビ砂漠で発掘された、中生代・白亜紀(約8400万年前~7200万年前)の恐竜ピナコサウルスから見つかりました。ピナコサウルスは背中をおおう装甲板(そうこうばん)のような皮骨で身を守る四足歩行の植物食恐竜です。世界初発見の「恐竜の喉」は大恐竜展で世界初公開されます！



ピナコサウルス頭骨(喉頭骨を含む)(実物)

©Takumi

©Takumi



福島県産の化石たち

福島県で初めて発見された恐竜化石

ヒロノリュウ

「ヒロノリュウ」は、福島県で初めて発見された恐竜化石です。1986年に当時小学生だった渡辺さんが広野町で植物食恐竜の歯の化石を発見しました。双葉層群・足沢層から発見されたこの化石には「ヒロノリュウ」の愛称がつけられました。ヒロノリュウはハドロサウルス形類で、約8900万年前に生息していました。

©工藤晃司

ヒロノリュウの頸椎
福島県立博物館蔵



ヒロノリュウ恐竜発掘現場写真(1986年)
根本守氏撮影

フタバリュウ

「フタバリュウ」は、ヒロノリュウと同様に、双葉層群・足沢層(ふたばそうぐん・あしざわそう)から多数の貝化石とともに発見されました。化石には「フタバリュウ」の愛称がつけられました。フタバリュウは獣脚類恐竜で、約8900万年前に生息していました。

©工藤晃司



フタバリュウ脛骨
ひろの未来館蔵

いわきコハク

福島県いわき市は、日本有数のコハクの産地として知られています。コハクは植物の樹脂が化石になったものです。白亜紀、恐竜たちが生きていた時代。裸子植物(らししょくぶつ)から出た樹脂は、ときに昆虫たちを包み込み、その姿を閉じ込めました。福島県から見つかる黄金色に輝くコハクは、時を越えて、「恐竜たちが生きた世界」を今に伝えるタイムカプセルです。



福島県立博物館蔵

恐竜時代の昆虫もはいつた宝石

ジュラ紀の世界がよみがえる

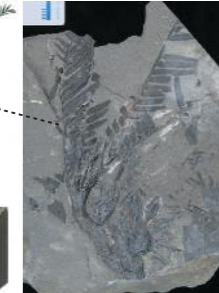
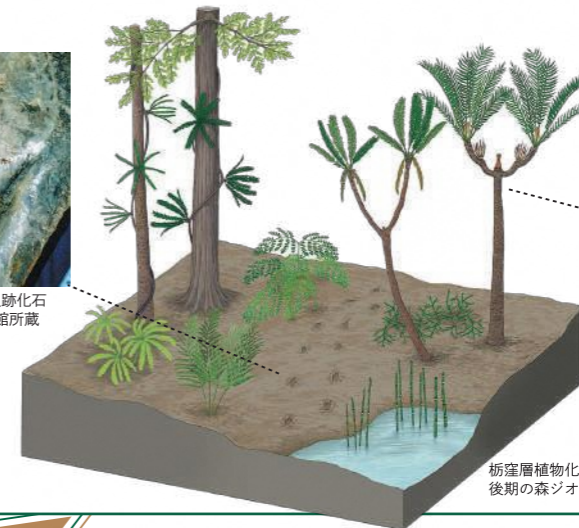
福島県からはジュラ紀後期の陸上で堆積した地層(栃窪層)が露出しており、恐竜の足跡や恐竜が食べていたと考えられる植物化石が見つかっています。福島県の植物化石の保存状態は素晴らしい、ジュラ紀後期の植物として貴重な化石群です。現在までに、シダ類、シダ種子類、トクサ、ヒカゲノカズラ、ソテツ、ベネチテス類など多様な植物類が見つかっており、ニルソニオクレイダス・ジャポニクスやキムリエラなどの新種となった植物化石も知られています。

足跡化石

1996年に3本の指が残された足跡化石が見つかりました。福島県で初めて見つかったジュラ紀の恐竜化石です。南相馬市鹿島区に露出する相馬中村層群・栃窪層(そうまなかむらそうぐん・とちくぼそう)より発見され、約1億6000万年前にこの地域に獣脚類(じゅうぎゃくるい)が生息していた重要な証拠となっています。日本で2番目に古い時代から発見された恐竜化石です。



獣脚類恐竜の足跡化石
南相馬市博物館蔵



キムリエラ
南相馬市博物館蔵

栃窪層植物化石から復元されたジュラ紀後期の森ジオラマ ©西尾製作所

キムリエラ

キムリエラは、福島県南相馬市で産出したジュラ紀後期の植物化石で、2022年に命名された新種の植物化石です。キムリエラの発見によって、これまで知られていた3種の植物化石は、実は同じ植物の葉、雄花、雌花であることが分かりました。現在では、南相馬市はジュラ紀植物化石の一大産地となり、その研究成果は国際的な評価を得るに至っています。

ザヴァケファレの近くに住んでいた?

チョイロドン



チョイロドン
©工藤晃司

チョイロドン化石

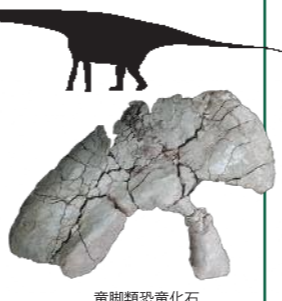
世界初公開!

モンゴルで発見された竜脚類の化石

現在研究中



発掘現場



竜脚類恐竜化石
モンゴル科学アカデミー古生物学研究所蔵

ティラノサウルスの仲間が一堂に!



アパラチオサウルス化石複製

アリオラムスサウルス化石複製

タルボサウルスたんば恐竜博物館蔵

ティラノサウルス

ティラノサウルス
©工藤晃司

ティラノサウルス幼体
©工藤晃司

恐竜も子育て?



ジチバチたんば恐竜博物館蔵